

くも膜下出血をマイクロCTにより可視化する方法

元脳神経外科学 宮岡 亮、脳神経外科学 山本淳考

利用分野

くも膜下出血に対する治療戦略を確立するための基礎研究において有用な手法である。基礎研究においては、げっ歯類のくも膜下出血モデルが一般に用いられる。早期脳損傷などの病態究明を目指す研究では、重要なツールとなる。

シーズ

くも膜下出血モデル動物の作成方法、及びくも膜下腔での血腫分布や血腫量を可視化する方法である。穿刺用の器具を挿入する外頸動脈のルートとは別に、造影剤の投与に必要なカテーテルを挿入するためのルートを確認する。血流を遮断することなく、造影剤の血管外漏出を可能とする動物モデルである。



ニーズ

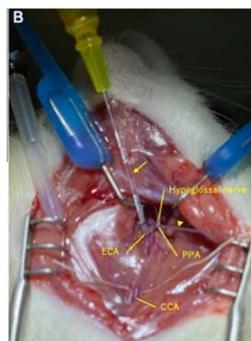
動脈瘤くも膜下出血は、生命予後も機能予後も悪い疾患であり、治療戦略確立のために動物モデルを用いた基礎研究が行われている。一方、動物モデルによる重症度のばらつきやモデル誘導の再現性は課題が残されている。動物モデルにおける重症度をサンプル間で均一化し疾患モデルとしての質を確保することが求められている。

連携分野

くも膜下出血後の2次脳損傷（脳浮腫、脳血管攣縮、髄液還流障害など）を軽減し得る治療薬の候補物質を提供できる製薬メーカーとの共同研究。

知財保護

特開2022-119624



くも膜下出血は、再出血予防とともに二次脳損傷に対する治療戦略が鍵になるんだ



本学マスコットキャラクター
ラマディー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL : 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail : chizai@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp